

2021年度 中京大学チャレンジ奨励金 最終報告書

2022年 2月 11日

学科・学年 情報工学科・3年

氏名 原 英吾

1. プロジェクト名

回覧板をIT化

2. 活動期間

2021年 7月 6日 ~ 2022年 1月 31日

3. 活動場所(主だった住所・施設名)

それぞれの自宅

4. 参加者 2名

5. 予算・使用経費等

費目	内容	予算金額	執行金額
交通費	豊田市役所役員との打ち合わせのための交通費	10440	5000
図書資料費	Flutterの参考書	10000	1610

6. 奨励金以外でかかった主な経費等

使用時期	使用用途	金額

◆プロジェクトの当初予定していた活動内容

回覧板アプリを開発する。開発にはトヨタの車載システムでも使用されており、Google社が開発をしているDartのFlutterを用いてチームで勉強しながら進めていく。主に「子育て世帯の負担軽減」をすることで、地域の生活をより豊かにしていくことを目的としていた。

私たちが設定した「子育て世帯の負担軽減」を成し遂げるために以下を行う。

- 子育て世帯が多く生活していると予想される浄水駅周辺の自治体を管理している団体を調べる
- 豊田市役所役員である方にアポイントをとりその地域で必要とされているニーズを伺う

上記の2点を把握できてから、網羅できるように開発を進めていく。開発のフローとしては以下の通りである。

1. Flutterの環境構築

2. Flutter の学習
3. BackEnd のフレームワークを選定
4. BackEnd のフレームワークについて学習
5. 自分たちのできる技術で機能の要件定義
6. 雛形を作成
7. α版を作成
8. β版を作成
9. 完成

◆中間報告時に抱えていた課題への対応結果

豊田市役所役員の方と話し合いをした結果

1. 生存確認機能
 - 回覧板は住民の生存確認をするという一面を持っているため
 - **機能を実装することで対応**
2. 幅広い世代に対して情報を発信できるような回覧板アプリ
 - 子育て世帯に的を絞って開発を進めるのは、高齢者も多く所属する自治体があるため不適切であるため
 - **子育て + ヘルスケアのメニューを作ることで対応**
3. 投稿機能
 - 自治体内の情報を共有するため
 - 未対応

◆プロジェクトの目標達成度合い（活動内容や到達レベル等を具体的に記入してください。成果物があれば、添付してください。）

目標

回覧板による情報共有を実現するアプリ開発

- 記事閲覧機能
- 生存確認機能

これらの機能を搭載したアプリケーションを開発する

達成状況

1. 記事閲覧機能
 - 静的ページだが閲覧が可能
 - 投稿機能を実装できていない
2. 生存確認機能
 - 世帯毎に家族のリストを取得代表者が個人の状況を連絡することが可能

自己評価による達成度 **65 %**

理由

1. 生存確認機能が不十分
2. 投稿機能が未実装
3. 実機テストが終わっていない
4. デプロイができていない

「α版の完成」まで行けたと考える。静的（DB保存などサーバーを通さずに動作する）アプリとして開発中のPCである程度動作の動作が出来ているためである。

◆改善点、やり残したこと

(改善点)

1. 記事閲覧機能

- 管理者が記事を投稿できる機能を搭載したい（画像とタイトルを投稿）

2. 生存確認機能

- データベースに繋いで、実際に記録させる機能
- 各世帯主が家族のリストを登録・ステータスを管理できる機能を開発したい

◆今回のプロジェクトを実施したことにより、どのような気づきを得たか

（例えば、成果の活用・利用について、次回のプロジェクト活動に向けての抱負、卒業してからの展望等、自由に記入してください）

● 気づき

自治体における回覧板の役割が一番大きな理由が市民の生存確認であること
スケジュールを組み、それ通りに進めていくことの難しさ

● 展望

デザイン・機能の改善の余地あり。具体的にはユーザーの使い勝手に配慮し、画面遷移が極力少なくなるように設計し直す。また、UI に関しては丸みを帯びたデザインにしていきたい。

最終的には回覧板のIT化の第一歩となれるように取り組む

それに伴うきっかけ作りを積極的に起こしていく。具体的には就活が終わってから積極的に春休み・夏休みで取り組んでいく。

まだ次回の打ち合わせの予定は立てていないが、β版が出来次第

● 必要な機能

● 不要な機能

● 公開 URL のドメイン

等の打ち合わせをしていきたいと考えている。

◆次回チャレンジしてみたいこと

アプリの下地作りに時間が割かれてしまったため、時間をとって、ウィジェットひとつひとつのデザインにこだわりを持って作りこんでいきたい。

◆チャレンジ奨励金制度を活用したい学生へのアドバイス

3年生の就活時期に活用することはあまりおすすめできない。なぜなら、スケジュールがタイトにならざるを得ないからである。しかし、ガクチカ等に自信のある内容が少ない人には良い機会かもしれない。実際に、最新技術でアプリを作成しているといった時に良い印象を面接官に与えられた経験もある。

◆実施結果（成果）

※必要に応じて写真・現物添付可。枠欄が足りなければ、追加してご記入ください。



トップページとリストを押した結果



設定ページと設定ページ内の安全確認ページ

アプリの操作説明等

- トップページ
投稿機能や投稿内容を確認できる
- 子育てページ
小中高大の子育てに対する Topic を扱う
- ヘルスケアページ
健康に関することを扱う
主に高齢者向け
- 設定ページ
主に個人情報の設定や生存確認機能を扱う